

(別添 4)

【津野町】

1 人 1 台端末の利活用に係る計画

1 . 1 人 1 台端末を始めとする ICT 環境によって実現を目指す学びの姿

津野町では、従来よりこども園・小学校・中学校が連携し、豊かな心を育む「津野っ子夢プラン」に取り組んできた。このベースを基に 1 人 1 台端末を活用し、「個別最適な学び」と「協働的な学び」の実現を図りたい。

1 人 1 台端末の活用にあたっては、協働学習アプリを用いて仲間と対話し、よりよいものを創る「協働的な学び」を重視しつつ、個々の興味・関心や AI ドリル等を用いて理解度に合わせた「個別最適な学び」を進めるものとする。

また、学習データを活用し、生成 AI 等によりリアルタイムにフィードバックを受けたり、学習におけるアドバイスを受けたりすることで、学習に対して高いモチベーションを維持できるようにしたい。そのために 1 人 1 台端末が特別なものではなく、文房具と同様に使用する環境を推進する。そして自ら見通しを立て、最適な学習方法を見いだしたり、発展的な学習に取り組んだりすることができる能力の育成と、互いに学び合う力の醸成を目指す。

2 . GIGA 第 1 期の総括

本町では令和元年度に中学生及び中学校教員の 1 人 1 台端末の整備と全校の情報通信環境整備を行った。また令和 2 年度には小学生及び小学校教員に 1 人 1 台端末の整備を行った。児童生徒数の減少から予備機が増えたために、現在では教員のみならず学校の全職員にも 1 人 1 台端末を配布し、クラウド活用を目指している。

また令和元年度から ICT 支援員を雇用し、児童生徒の端末活用における支援やネット回線トラブルへの対応、教職員へのアドバイス等のサポートを実施している。

その結果、授業等の様々な場面で ICT の活用が進み、児童生徒がそれらを活用して情報収集、資料の共有を行ったり、スライドや簡単なプレゼン用動画を作成したりするなど、学習場面に取り入れる場面が急速に増えた。

一方で、教職員においては端末の操作方法等の習熟度に個人差があるため、長期休暇中に ICT 支援員による教職員向けの実技研修を実施している。

3 . 1 人 1 台端末の利活用方策

協働学習アプリを用いて仲間と対話し、よりよいものを創る「協働的な学び」を今後より一層深めていくとともに、AI 型ドリルを用いた「個別最適な学び」を促進する

など、児童生徒 1 人 1 人のニーズに応じた学習環境を提供していく。また、学習データを効果的に生かして支援の必要な児童生徒への適切な指導・よりよい授業づくりを目指す。

様々な事情により欠席している児童生徒に対しては、1 人 1 台端末を活用することでオンラインでの授業を行い、学びの幅を広げ、学習機会の保障を行う。

教職員については、教育 DX 先進校への視察や講師招聘等を行い、取り組みについて学ぶ機会を設ける。

さらに令和 7 年度から ICT 支援業務を行う地域おこし協力隊を採用し、多様な学びを行うとともに、児童生徒及び教職員に対してよりきめ細かい ICT 支援を実施する。

これらを実現するためにも 1 人 1 台端末が必要不可欠であり、今後も端末の整備及び更新を実施する。